

2014年1月20日

行政改革推進会議 議長
内閣総理大臣 安倍 晋三 殿

伊藤忠商事株式会社
取締役会長 小林栄三

第9回 行政改革推進会議の議題に関する意見

拝啓 ますますご清祥のことと存じます。

さて、1月20日開催の第9回行政改革推進会議のご案内を頂戴いたしました
が、誠に恐縮ながら、止むを得ない事情により出席できないため、標記につ
きまして、下記の通り意見を申し上げますので、よろしくお取り計らいくだ
さいますようお願い申し上げます。

敬具

行政事業レビュー全般について

本年度において、5千件近い膨大な数の事業について個々に点検が行われ、う
ち千件余については外部有識者のチェックを受け、かつ66の事業が公開プロ
セスの場でレビューされたことは、行政全般の効率と合目的性を担保するた
めに非常に有意義であったと思いますとともに、精力的にこの活動を推進してこ
られた行政改革推進本部のご努力を高く評価いたします。

PDC Aサイクルは事業レビューの基礎となるものであり、前回会議におい
ても申し述べましたように、やはり最も大事なことは「P」を正しく設定し、時
代の要請に合わせて必要な修正を加えていくことであると思います。従い、こ
れからは「結果の点検」と並んで「目標設定の妥当性の点検」の重要性が増し
て行くものと認識いたしております。

「秋のレビュー」と外部チェックについて

「秋のレビュー」につきましては、過去において見られたような「劇場型レ
ビュー」からの脱却という面において、顕著な改善が見られたと思います。
外部有識者の参画の在り方については、実際に参加された有識者からのコメン
トを参考に今後のレビューの改善に活かしていくことが非常に重要であると認

識しています。

特に、対象となる事業の選定にあたって、外部有識者の意見も取り入れること、また規模の大きな事業については外部チェックの頻度を上げるなどの工夫が求められると考えます。

さらに、事業初年度のものとは最終事業年度にあたるものに加え、開始後2-3年を経過した事業のレビューを重点的に行うことが有効ではないかと思えます。実際に事業を開始すると、当初は予想できなかったような問題が必ず発生するもので、比較的早い段階で外部有識者によるレビューを行い、事業の方向性を再確認することが、行政の質の向上のために効果的ではないかと思量いたします。

以上